

目 次

題 字 町 長 早川慶明

見返し絵 カット 国画会々員 内堀 勉

発刊にあたつて I

はじめに III

目 次 VII

南木曾のあらまし I

原 始

第一章 南木曾のあけぼの 5

第一節 南木曾考古学散歩

一 遺跡めぐり 6

二 研究のあゆみ 6

第二節 自然環境の変化と生活

一 旧石器時代
二 縄文時代
成立段階(「草創期」および「早期」).....	22
(「前期」および「中期」).....	24
成熟あるいは終末段	
階(「後期」および「晚期」).....	30

第三節 縄文人の生活

一 衣生活	
二 食生活	
狩獵と漁撈—動物性食料	40	
採集—植物性食料	46	
三 住生活	
四 その他の生活用具	
五 精神生活	
墓制	57	
祭祀	63	
民間信仰とのかかわり	73	
道(交流)	
第四節 外とのかかわり	
一 道(交流)	
78	78	
56	55	53
40	37	
37		
21	17	
17		

古代・中世

二 外とのつながり

移動から定住へ 80 東西日本の交流 84

第二章 いにしえの木曽

第一節 古代の道

- 一 東山道の開設
二 木曽路をひらく
第三章

第二節 恵那郡絵上郷

- 一 絵上郷と木曽路
二 木曽路開通の意義
第四章

第三章 中世の南木曾

第一節 木曽義仲から小木曾庄まで

- 一 木曽義仲
二

118

118

117

111 108

108

101 94

94

93

80

近世

第四章 近世の村と産業

第一節 領地の変遷

- | | |
|-----------------|-----|
| 一 天下人豊臣秀吉の蔵入地木曾 | 164 |
| 二 徳川家康領木曾と代官 | 164 |
| 三 尾張藩領木曾と山村氏 | 164 |

第二節 近世の村々の変遷

- | | |
|-----------|-----|
| 一 近世前期の村々 | 187 |
| 二 近世後期の村々 | 187 |

二 大吉祖庄と小木曾庄 125

第二節 爭乱の時代

- | | |
|-------------------|-----|
| 一 真壁氏と木曾(藤原)氏 | 135 |
| 二 戦国大名木曾氏 | 141 |
| 三 妻籠城の戦い(天下統一の中で) | 149 |

三 村政機構と村々の動向

第三節 産業の発達

- 一 産業經濟の概観
二 農業の發達
三 木工業の發展

第五章 街道と宿場

第一節 近世の交通路

- 一 中山道
二 与川通・飯田道・飛驒道・林道・山道

第二節 三留野・妻籠両宿の機構 機能

- 三 留野・妻籠両宿の成立及びその機構
二 宿駅の機能——継立て 休泊

第三節 助郷

- 一 尾州人馬・美濃馬 美濃人足
二 伊那助郷

第六章 木曽山と住民

第一節 林政の変革と住民

- 一 木曽の五木 366
- 二 初期の林政 366
- 三 寛文の林政改革 379
- 四 享保の林政改革と育成林業 383

第二節 山林の仕事と住民

- 一 巢鷹山と住民 407
- 二 山林の採取物と住民 414

第七章 江戸時代の村人たち

第一節 日々のくらし

- 一 不安定な世の中 436
- 二 周左衛門家の生活 436

第二節 うるおいを求めて

- 一 民間信仰(伊勢参りなど) 461

近 代

第八章 南木曾の歩んだ道

第一節 近代への脱皮

- 一 明治維新と南木曾 489
- 二 整えられる諸制度 509
- 三 三つの村から 490

第二節 変ぼうする南木曾

- 一 土地と山林 542

地租改正.....	林野の官民有区分と地租改正.....	542
明治十四年官林境界調査.....	部落有財産統一と入会権問題.....	556

二 伸びゆく産業

農業の発展.....	574
勧業団体の役割.....	588

569

542

542

525 509 490

490 489

482 471

482 470

二 村の神社と仏閣

三 村の文化と芸能

伝統産業の推移 ······ 593

三 御料林と村人たち ······

御料林と哀願運動 ······	603	御下賜金をめぐって ······	612
御料林事件と島崎広助 ······	621	村人の抵抗 ······	628
御料林の経営 ······	637		

第三節 近代化の足音 ······

一 南木曽の文明開化 ······			
道路について ······	650	運輸について ······	
鉄道について ······	667	郵便について ······	681
二 電気をつくる ······			

第九章 苦しみに耐えて ······

第一節 災害と戦う ······

705

一 蛇抜けと火災 ······	
727	727
二 村を守る消防と警察 ······	
719	706

第二節 昭和の嵐 ······

一 昭和恐慌 ······	
727	727

現
代

第三節 満州移民.....	768
一 満州移民への道	768
二 読書分村	774
第十章 新しい南木曾.....	817
第一節 戦後の南木曾の歩み	818
一 民主主義と地方自治の確立をめざして	818
二 町村合併の動き	829
三 南木曾町になつて	839
第二節 繁栄をめざして	858
一 南木曾の農地改革	858

二 町を支える力			
農業について	867	林業について	880
三 町のにぎわい			
工業について	886	商業について	895
発電所の建設	899		
第三節 観光開発の歩み			
第一節 各地区の足取り			
田立の滝の開発	910	読書地区の観光開発	
吾妻地区の観光開発(妻籠宿を除く)	924		
二 よみがえる妻籠宿	919		
第十一章 住みよい町へ			
第一節 蛇抜け			
一 戦後の災害	980		
二 蛇抜けの原因と防災対策	980		
第二節 安心を築く			
一 治安への努力	970		
	954		
	953		
	930		
	910		
	910		
	886		
	886		

二 すこやかな日々

第三節 豊かな暮らし

一 生活の向上

座談会 戦後の混乱期の生活 1020

二 便利な世の中

教 育

第十一章 南木曾のいしづえ

第一節 教育の普及

第一節 教育の普及	1043	第一節 教育の普及	1044	第一節 教育の普及	1044	第一節 教育の普及	1044	第一節 教育の普及	1044
一 学校教育のはじまり	1059	二 国家と教育	1073	三 大正期の教育	1086	四 昭和 戦時下の教育	1103	五 新教育の出発	1103
第二節 次代を育てる		第二節 次代を育てる		第二節 次代を育てる		第二節 次代を育てる		第二節 次代を育てる	
第三節 豊かな暮らし		第三節 豊かな暮らし		第三節 豊かな暮らし		第三節 豊かな暮らし		第三節 豊かな暮らし	

二 蘇南高等学校の設立	1112
三 南木曽中学校の発足と小学校百周年	1136
四 幼児の保育	1123
第三節 生涯にわたつて	

一 社会教育のめばえ	1140
二 公民館活動のあゆみ	1140
三 人々は集う	1140

おわりに

南木曽町の課題	
町誌編さんとのあゆみ	

1175 1171 1158 1151 1140 1140 1136 1123 1112